

医療的ケア児等の新型コロナウイルス (COVID-19) 感染対策とその影響について

障がい者支援課

1 調査概要

対 象：医療的ケア児等コーディネーター・同看護リーダー 25名

患者家族会代表 6名

調査方法：6月3日にメールにて問い合わせ。これまでに医療的ケア児等コーディネーター9名と患者家族4名からメール、電話にて回答を得た。

2 調査結果

	不安、課題	対策、取り組み	今後に向けて
① 感染対策について			
支援者	・施設内感染(クラスター)への不安、液体の消毒用エタノール等衛生用品の不足。 ・サービスの可否やその判断、感染対策方法等不安が大きい。	市町村の備蓄放出、国の優先供給スキーム・酒造会社のアルコール供給の情報を提供。	施設での感染対策のわかりやすいマニュアルが欲しい。
	動く医ケア児、知的障がい児・者が罹患リスク高い。無症状患者・濃厚接触者になった場合も、慣れない医療機関への入院は困難。	当該児・者の自宅、施設等での隔離観察に際し、地域支援者チームで24時間ケアを行う覚悟。	地域支援者チームへの防護・医療用品供給と感染対策方法の指導による地域医療資源の擁護。
	医療的ケア児等が罹患・濃厚接触者になった場合の医療体制・入院対応について不安が大きい。	児の基本情報をまとめ、市町村の地区担当保健師との共有を進めている。	災害同様、小児に不慣れな感染病棟への入院に備えて基本情報が必要であることを市町村に周知する。
本人・家族	医療物品供給の不安。気管カニューレは海外のロックダウンで製造停止、一部欠品。医療機関からの情報も供給もまちまちだった。	・欠品の原因と対策(他社製品への移行)の情報提供を行った ・エタノールは訪問看護ステーションを通して供給。	・医療機関やプロバイダー業者からの情報提供。 ・訪問看護の有効性が分かり、利用開始したケースも。
	病院受診しないことでの重症化、薬・医療デバイスの不足が心配。		薬剤師訪問支援の活用。
② 外出自粛とその後の影響について			
支援者	モニタリング会議もできず、自粛期間中の児の様子が知りたかった。	患者家族同士は連絡を取り合っていた。	・相談支援専門員による聞き取り、支援者への共有があるとよい。 ・遠隔発達支援の好事例の共有。
本人・家族	・体の拘縮、変形が進み、身体機能の低下も起きている。装具が合わなくなっていて我慢しているケースも。 ・家族だけのケアに限界を感じる。	・PT を招き事業所内でケア手法のカンファランスを行った。 ・オンラインで遠隔発達支援。 ・行動障害を伴う児の家族からの「限界」に際して、緊急レスパイトを実施。	・通所事業所への地域リハビリの巡回指導。 ・地域生活支援拠点の緊急対応の場として、圏域を超えて受けしてくれる医療機関(の病床)を確保。